

論理的思考力を育成するための国語科の授業づくり

—「主張・理由・事実」の三角ロジックを用いた書く活動に焦点をあてて—

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 中等教科教育分野 王橋

1. 研究動機

予測困難な時代背景の中で、自分の主張を論理的に述べる力が重要になってくる。さらに、中学校国語科学習指導要領でも、国語科の目標の(2)として、「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」としている。また、「ここでいう思考力や想像力を養うとは、言語を手掛かりとしながら、論理的に思考する力や豊かに想像する力を養うことである。」としている。

しかし、PISA2022 調査を見ると、読解リテラシーの中で、評価・熟考力（特に問6：情報の質と信頼性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する（自由記述））が依然として低い。そのため、自分の主張を論理的に述べる力を育成する授業づくりを行っていく必要があると感じたことが、研究動機である。

2. 研究目的

「主張・理由・事実」の三角ロジックを用いた書く活動に焦点をあてて、生徒が論理的に思考できるようになる力を育てる国語科の授業づくりを行うことを研究目的とした。

3. 研究内容

鶴田清司（2017）『授業で使える！論理的思考力・表現力を育てる三角ロジック』で述べている「三角ロジック」に依拠し、「主張・理由・事実」の三角ロジックを用いてある話題に対して主張する意見文を書く。そして、その主張に対して生徒同士で交流する場を設けて意見文を推敲していく。こうした授業を取り入れ、生徒の論理的思考力を育成する授業を構想する。

4. 論理的思考力に関する先行研究

4-1. 論理と三角ロジックについて

鶴田清司（2017）は、論理と三角ロジックについて次のように述べている。

まず、論理について、「論理とは、考えを組み立てる筋道のことであり、論理的とは、その筋道の説得力が高いことである。」と述べている。

次に、三角ロジックについて、「論理的思考・表現のツールとして、三角ロジックというものがある。主張は、結論であり、根拠とは、誰が見ても明らかな証拠資料（客観的な事実・データ）のことである。根拠がなぜ主張を支えられることになるのか、どうしてその証拠資料からその主張ができるのかを説明するのが理由である。」と述べている。

本研究において、論理的思考力とは、物事を筋道立てて整理し、根拠を明確にした上で、結論を導き出す思考過程を指すことであるとする。その思考過程で主張・理由・事実を相互に密接に関連づけていきたい。

4-2. 論理的に書く力をはぐくむことについて

宮前嘉則（2010）は、論理的に書く力をはぐくむ生徒について、「自分の考えを論理的に書く力をはぐくむ生徒とは、読み手が納得できる文章を書くために、振り返りの観点を利用して効果的に表現したりする生徒のことである。読み手の立場に立って表現を振り返る活動として、①読み手の立場に立って表現を考える活動、②読み手の立場に立って表現を読み合う活動、③読み手の立場に立って表現を評価し合う活動の3つの活動がある」と述べている。

以上の鶴田・宮前の先行研究に依拠し、本研究では、根拠を明確にして、自分の考えが伝わる論理的な文章を書く力を育てていく。その際に、「主張・理由・事実」の三角ロジックを活用する。さらに、他者との交流を通じて自分の文章を推敲していくことを通して実際に行っていきたい。

5. 研究授業の実際

5-1. 対象校、授業教材について

- (1) 対象校：山梨県内の中学校
- (2) 期間：2025年12月全5時間
- (3) 対象：1学年1クラス（35名）
- (4) 単元：『根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する』（光村図書1年）

5-2. 単元を通しての目標

知識・技能…情報（2）イ 比較や分類、関連づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。

思考力・判断力・表現力等…B 書くこと（1）ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる、オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。

学びに向かう力・人間性等…根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもって文章を作成しようとしている。

5-3. 各時間の授業の実際

5-3-1. 事前アンケート・事後アンケートについて

- (1) アンケート項目

授業を行う前に、生徒の論理的思考力の実態を把握するために、1学年2クラス69名を対象に、事前アンケートを実施した。事前アンケート・事後アンケート項目としては、以下を聞いた。

○事前アンケート項目

1. あなたは、国語の授業において、書く活動はどれくらい好きですか。5段階評価をしてください。（選択肢、5になるにつれて好き）
2. 1のように感じるのはなぜですか。（記述）
3. あなたは自分の主張を書くことを困難だと感じますか。5段階評価をしてください。（選択肢、5になるにつれて困難を感じている）
4. 3のように感じるのはなぜですか。（記述）
5. あなたは自分の主張を書くとき、理由を明確にしなが、書くことを困難だと感じますか。5段階評価をしてください。（選択肢、5になるにつれて困難を感じている）
6. 5のように感じるのはなぜですか。（記述）

○事後アンケート項目

1. あなたは自分の主張を書くことを困難だと感じますか。（選択肢、5 になるにつれて困難に感じている）
2. 1のように感じるのはなぜですか。
3. あなたは、自分の主張を書くとき、理由を明確にしながら、書くことを困難と感じますか。（選択肢、5 になるにつれて困難に感じている）
4. 3のように感じるのはなぜですか。
5. 各授業の感想を聞かせてください。

(2) アンケート結果（事前アンケート・事後アンケート）

以下は、事前アンケートの3から6、事後アンケートの1から4を比較した結果である。（評価は分かりやすいように○をつけている。例えば、評価1の生徒は①となる）

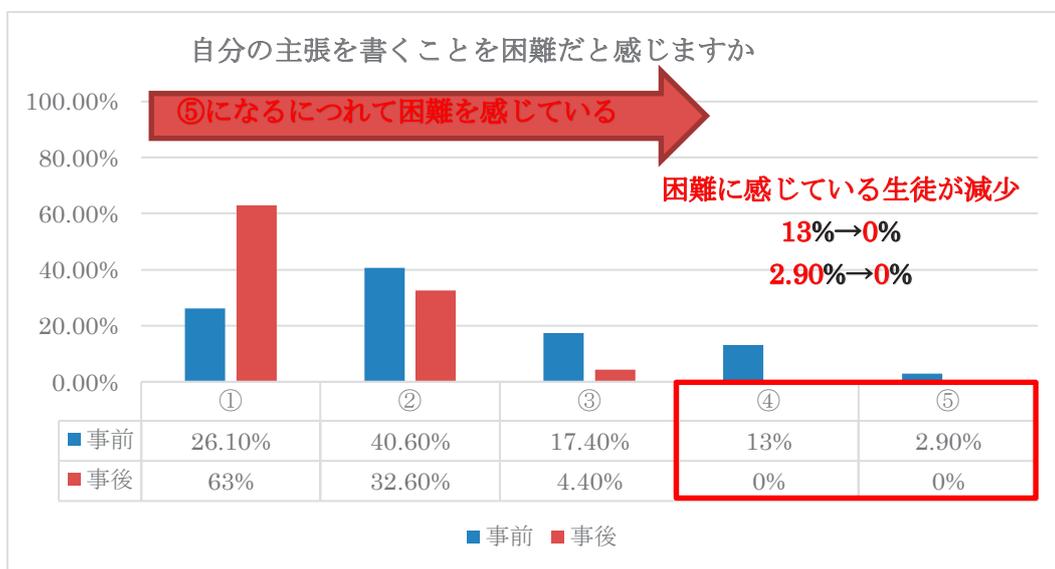


図 1

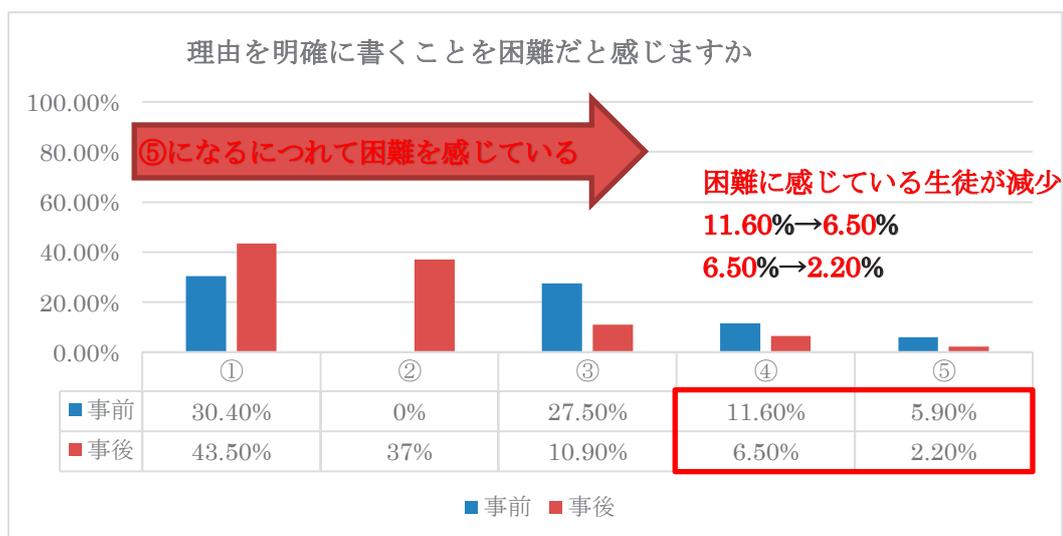


図 2

5-3-2. 主張文を書く (1時間目)

○めあて 単元の見通しを持ち、提示課題について考えて書くことができる。

○概要 課題「電子書籍よりも紙の本を読むべきだ。賛成？反対？」を提示し、そのことについての自分の主張を書くように伝えた。

5-3-3. 主張・理由・根拠が大切だということを知る (2時間目)

○めあて 他者を説得できるような文章を書く際にはどのようなことに着目すべきなのかということについて知ることができる。

○概要 他者を説得できるような文章を書く際には主張・理由・根拠が大切になってくることを「先生は、犬を飼うか、猫を飼うかで迷っている」という例題や主張文を踏まえながら、教えた。

5-3-4. 主張・理由・根拠をもとに自分の主張文を書き直す (3時間目)

○めあて 2時間目で学んだことを振り返りながら、1時間目で書いた文について書き直してみよう。

○概要 2時間目で学んだことを踏まえながら、再度、1時間目で書いた文章を書き直させた。

5-3-5. 書き直した主張文をグループで検討する (4時間目)

○めあて グループの人が書いた文について聞き、良かったところや改善すべき点を共有しよう。

○概要 書き直した文章を踏まえながら、グループ活動（グループ内にそれぞれの項目の賛成派、反対派がいるようにする）を行った。

5-3-6. 主張文を完成させる (5時間目)

○めあて 他者を説得できるような文章を書く際にはどのような点に着目すべきなのかということについて再度確認することができる。

○概要 他者を説得できるような文章を書く際には、主張・理由・根拠が大切になってくることを再確認させ、それぞれがどのようなものなのかということを確認した。

6. 研究授業の考察

6-1. 事前・事後アンケートの結果から

6-1-1. 主張を書くことが困難であるかについて

事前アンケートで、④、⑤と回答した生徒が、事後アンケートでは「困難ではない」と答えていた(図1)。その理由について、事後アンケート項目5の生徒の記述から考察する。記述には、以下のようなものがあつた。

・2時間目の授業において、主張・理由・根拠についてよく知れたし、相手の納得するような文章を作れるようになった。

・5時間を通して、他者を説得するうえで大切なことを何回も確認してくれたことで、それを踏まえて、自分の主張文を書くことができた。

以上の記述から、2時間目で行った授業の中で、主張文例を提示したことが成果につながったと考えられる。

6-1-2. 理由を明確にしながら、書くことを困難に感じているかについて

事前アンケートで、④、⑤と回答した生徒が、事後アンケートでは「困難ではない」と答えていた(図2)。その理由について、事後アンケート項目5の生徒の記述から考察する。記述には以下のようなものがあつた。

- ・理由がしっかりしていなかったが、他者の意見もよく聞くことで、より自分の主張文(特に理由の部分)がよいものになっていったように感じる。

- ・3時間目からワークシートの裏面に、自分の主張・理由・根拠は何かをメモする欄があり、それを書くことで自分の書きたいことが明確になった。(特に理由について)

以上の記述から、3時間目以降に作成したメモ用紙や4時間目に行ったグループワークが成果につながつたと考えられる。

6-2. 生徒AとBの変容から

前項では、全体の生徒の傾向として、1時間目と比較して5時間目の方がより説得力を持たせた論理的な文章を作成することができていたということ述べた。次に、生徒2名の記述から、この授業を考察していく。

(1) 生徒A

1時間目	5時間目												
<p>私は電子書籍より、紙の本で読むことに賛成する。その理由は、紙の本の方が記憶に残るとのことだ。</p> <p>2022年の昭和大学認知科学研究チームの発表によると、「電子書籍より、紙の本の方がリラックスでき、集中して読める」ということが科学的に分かっている。</p> <p>私は「電子書籍より、紙の本の方が良い」という意見に賛成である。</p>	<p>私は電子書籍より、紙の本で読むべきであるという意見に賛成する。紙の方が良い理由は、「紙の本の方が記憶に残る」ということだ。</p> <p>以下の図は紙の本で読む人と、デバイスで読む人の二つのグループに同じ本を読ませて、その後本文の内容に関する理解度テストを受けた結果である。</p> <p style="text-align: center;">図表を入れている</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1"> <caption>図表: 理解度テストの結果</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>印刷した紙 (得点)</th> <th>デバイス (得点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主旨</td> <td>3</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>要点</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>関連情報</td> <td>7</td> <td>6.5</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>これを見れば「紙の本の方が記憶に残る」という事実に納得してもらえるだろう。</p> <p style="text-align: center;">反対意見を取り入れている</p> <p>また、確かに電子書籍は持ち歩きに便利だが、分厚い本を読んだ、字が小さい本を読み切ったという達成感は薄れるだろう。以上より、私は「電子書籍より、紙の本の方が良い」と考える。</p>	項目	印刷した紙 (得点)	デバイス (得点)	主旨	3	2.5	要点	6	5	関連情報	7	6.5
項目	印刷した紙 (得点)	デバイス (得点)											
主旨	3	2.5											
要点	6	5											
関連情報	7	6.5											

生徒Aは、1時間目に比べて、5時間目の文章は、グラフを添付しており、グラフに基づきながら、自分の主張を論じている。また、「確かに電子書籍は持ち歩きに便利だが、分厚い本を読んだ、字が小さい本を読み切ったという達成感は薄れるだろう」のように電子書籍のいい面に触れながら自分の主張を述べている。

なぜそのような変容があつたのかについてもワークシートの振り返りから考察していきたい。2時間目において、「先生が提示した主張文により、根拠の中に図表を入れることで、より説得力のある文章

になることに気づかされました。」、4 時間目において、「自分とは反対意見の生徒の意見を聞いて、自分の考えが深まりました。」という記述から、2 時間目で主張文を提示したことや4 時間目でグループワークを行ったことが変容のきっかけになったのではないかと考える。

(2) 生徒 B

1 時間目	5 時間目
<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍に比べて目が疲れにくい ・内容が頭に入ってきやすい（電子書籍だと流し読みのようにになってしまう） ・表紙なども含めて1つの「本」 ・集めるのが楽しい（読まなくても） ・軽い ・頭が良さそうに見える（超偏見） ・充電をしなくてもいい 	文章になっている
	私は、電子書籍ではなく紙の本を読むことに賛成です。理由は主に 2 つあります。
	理由を 2 つ述べている
	1 つ目は、目が疲れにくく、長い時間本を読むことができるということです。紙の本は、目が悪くなることもなかなかありませんし、長い時間本を読むことによって集中力や文章力の向上などが見込まれます。
	2 つ目は、見た目から楽しむことができるということです。
	本屋の例を出している
	実際に本屋さんなどで売られている本にはたいてい表紙が描かれています。
	以上の観点から私は紙で本を読むことを推奨します。あなたももう一度本の良さについて考えてみてはどうでしょうか。

生徒 B は、1 時間目に比べ、5 時間目の文章は、文章になっており、「電子書籍よりも目が疲れにくく、より長い時間本を読むことができる」、「見た目から楽しむことができる」のように理由を 2 つ書くことができていた。そして、実際に本屋の例をあげながら、自分の主張を述べている。なぜそのような変容があったのかについてもワークシートの振り返りから考察していきたい。3 時間目において、「ワークシートの裏面に、自分の主張・理由・根拠は何かをメモする欄があり、それを書くことで自分の書きたいことが明確になったので、次回以降書き直してみたい。」、4 時間目において、「チェックシートのコメント欄でもらった改善点の意見を踏まえて、自分の文章を書き直していきたい。」という記述から 3 時間目以降に作成したメモ用紙や 4 時間目に行ったグループワークが変容につながったのではないかと考える。

しかし、その一方で、生徒 B の 5 時間目のワークシートの記述には、「自分の主張・理由・根拠は見つけられたけど、図や表を用いることができなかった。」とも書いており、生徒への支援が不十分であったと感じた。

7. 研究のまとめ

7-1. 成果と課題

本研究では、まず、主張文を書かせた。次に、例題や教師が作成した主張文例を踏まえながら主張・理由・根拠が大切になってくることを教えた。次に主張・理由・根拠を踏まえながら、生徒に主張文を書き直させた。次に、書き直した主張文を踏まえてグループワークを行い、文章を批評しあった。最後に批評から主張文を推敲させた。このように主張文をよくしていくプロセスを経験させることで、1 時間目と比較して 5 時間目の方がより説得力を持たせた論理的な文章を作成することができた。

このような結果をもたらしたのは、特に 3 つの活動が良かったからだ。1 つ目は、教師が作成した主張文例を提示したことである。主張文例内に図表を入れたことで、図表を入れると説得力が上がることを生徒が感じるようになった。2 つ目は、グループ活動である。グループワークによって他者の主張文

を批評し合う活動をする中で、生徒が自分にはなかった視点について補強できるようになった。3つ目はメモ用紙を作ったことである。メモ用紙を作ったことで、生徒がどのように自分の文章を書いていけばいいのかについて見通しを持つことができた。

一方、根拠を見つけるのが困難であった生徒の支援が課題であった。

7-2. 今後の研究の展望

「電子書籍よりも紙の本を読むべきだ。賛成。反対。」以外の課題で論理的思考力を育む教材を発掘する必要があると感じた。また、根拠を見つけることが困難だと感じる生徒に対してどのような支援ができるのかについても考えていきたい。

8. 参考・引用文献

- ・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社
- ・文部科学省（2023）『PISA2022のポイント』https://www.mext.go.jp/content/231213-mxt_kyoiku01-000033084_03.pdf（2026. 02. 02 確認）
- ・鶴田清司（2017）『授業で使える！論理的思考力・表現力を育てる三角ロジック』図書文化社
- ・宮前嘉則（2010）『自分の考えを論理的に書く力をはぐくむ国語科指導の工夫～書く過程に読み手の立場に立って表現を振り返る活動を取り入れて～』群馬県総合教育センター 平成22年度長期研修員研究報告書
- ・甲斐睦郎他（2025）令和7年度版 中学校1年生国語教科書光村図書
- ・文部科学省（2014）『平成26年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料 <https://warp.ndl.go.jp/web/20250908081321/https://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/index.html>（2026. 02. 02 確認）